

内航船の実務等の解説を通じて各校の指導を支援

～海技教育機構各校の教員を対象とした内航海運に関する勉強会の模様～

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース（TF）」を設置し、優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を行っている。

優秀な日本人海技者の確保にあたっては、船員教育機関の先生方に業界の現状や実務に関する理解を深めてもらい、学生の指導に生かしてもらうことが重要であることから、この度、海技教育機構各校の先生方を対象に内航海運に関する勉強会を開催した。

この「勉強会」は、人材確保 TF で内航分野の案件に対応する「内航ワーキンググループ（WG）」のメンバーが、内航業界に多くの新人船員を送り出している海技教育機構傘下の海上技術学校（小樽・館山・唐津・ロ之津）、海上技術短大（宮古・清水・波方）及び海技大学の先生方に、内航海運の現状や運航及び荷役の実務等についてレクチャーし、それを学生指導に役立ててもらうことを主な狙いとしたもので、昨年度に続いて今回が2回目の開催。



TV会議による勉強会の模様

今回は、2012年12月11日に内航WG

の太田座長（栗林商船 取締役船舶部長）の他、同WGメンバーである西浦氏（三洋海運 海務部部長）、尾形氏（新和内航海運 船員・労務チームリーダー）、知念氏（JX 日鉱日石タンカー 船員グループマネージャー）が静岡市清水区の同機構本部を訪問、TV会議システムを通じて各校の先生方に説明を行った。



内航海運の概況を説明する太田座長

勉強会では、まず、太田座長より、内航船員の現状も含めた現下の内航海運の概況について各種データを交えて説明された後、各講師から様々な内航貨物船（石灰石専用船・原油タンカー・RORO船・電気推進機関によるスーパーエコシップの石炭灰専用船）の配乗体制や運航・荷役実務等について解説が為された。

その後、機構側の要請に応じ、各社から新人船員の育成プロセスやキャリアパスの例が紹介された他、機構の指導内容の他、若年船員の確保がより深刻な小規模内航事業者に如何に



先生方の質問に対応する西浦氏・尾形氏・知念氏(写真左より)

学生の目を向けさせるかのという問題や、各校卒業生の就職後の学校側によるサポート等について、講師と各校の間で意見交換された。

今回の勉強会について、参加各校からは、「実務の情報を学生指導に反映できる」等、高い評価を得た他、今後も同様の勉強会を開催してほしいとの要望が寄せられた。